

一人一台タブレット環境の アクティブ・ラーニングに対する意識と成績の分析 —中学生の公的自己意識・自己顕示性・拒否回避欲求・賞賛獲得欲求に 着目して—

Analysis of Recognition towards Active Learning with Personal Tablet PC: Focusing on Junior High School Student's Public Self-Awareness, Self-Exposure, Praise Seeking and Rejection Avoidance

舘野 杏奈^{*1}, 北澤 武^{*2}

Anna TATENO^{*1}, Takeshi KITAZAWA^{*2}

^{*1}東京学芸大学教育学部

^{*1}Faculty of Education, Tokyo Gakugei University

^{*2}東京学芸大学情報科学分野

^{*2}Department of Technology and Information Science, Tokyo Gakugei University

Email: a151414g@st.u-gakugei.ac.jp

あらまし：本研究では、一人一台タブレット環境を初めて体験する中学1年生を対象に、対話を重視したアクティブ・ラーニングの授業（理科，地層のできかた）を実施した。そして、生徒の公的自己意識，自己顕示性，拒否回避欲求，賞賛獲得欲求に着目し，アクティブ・ラーニングに対する意識や小テストの成績との関係を授業の前後で比較分析した。結果，賞賛獲得欲求の低群に意識の向上が認められた。さらに，賞賛獲得欲求の高群に小テストの成績上位の割合が大きかったことが分かった。

キーワード：公的自己意識，自己顕示性，拒否回避欲求，賞賛獲得欲求，一人一台タブレット環境，アクティブ・ラーニング，成績

1. はじめに

中学校の新学習指導要領（平成29年3月公示）では、一人一台タブレット環境で「主体的・対話的で深い学び（いわゆる，アクティブ・ラーニング）」の実現に向けた授業改善が謳われている⁽¹⁾。タブレットを対話で使うアクティブ・ラーニングを実施すれば，中学生の公的自己意識の高群は自分の考えや意見を他者に伝えやすいという意識が高くなり，成績も向上する⁽²⁾。しかし，公的自己意識の高群には，自己顕示性や拒否回避欲求，賞賛獲得欲求の各々に高低が見られる特徴があり，これらの学習者特性との関わりを分析することが課題であった。

そこで本研究では，中学生の公的自己意識高群の自己顕示性や拒否回避欲求，賞賛獲得欲求に着目した。そして，タブレットを対話で使うアクティブ・ラーニングの授業の前後に実施したアンケート調査や小テストの伸びを比較分析することを目的とする。

2. 手続き

2.1 対象

都内公立中学校1年生23名（男子：10名，女子：13名）を対象とした。

2.2 授業の概要

2017年12月12日に理科（単元名「大地の成り立ちと変化」，本時「地層から何がわかるか」）の授業を実施した。個の考えを班に共有する際と，班の考

えを全体に共有する際にタブレットを活用した。

2.3 公的自己意識，自己顕示性，賞賛獲得欲求，拒否回避欲求の高低の分類

「自分が発言したことを，人がどう思うか気になりますか」（4件法）⁽⁴⁾などの10の尺度について，各項目の肯定の回答（3と4）を「1点」，否定の回答（1と2）を「0点」として高低を分類した。

4.2 小テスト

地層の用語を問う知識・理解と，地層のでき方を記述する思考・判断・表現の小問で構成した。

2.5 分析方法

アンケートは各学習者特性の高低によって，事前と事後の意識の推移を調べるために，Wilcoxonの符号付順位検定を行った。小テストは，成績が伸びた成績上位者は，どの学習者特性であるかを分析した。

3. 結果

3.1 公的自己意識

意識調査は，高群も低群も事前事後で有意差がなかった。小テストは，公的自己意識高群は11名中，成績上位者6名（42.9%），成績下位者5名（55.6%）であった（図1）。

3.2 自己顕示性

意識調査は，自己顕示性の低群は，9項目に有意差が認められた（表1）。小テストは，自己顕示性高群13名中，成績上位者8名（57.1%），成績下位者5

表1 アンケートの結果（有意差ありのみ掲載）

分類	項目	高群	低群	有意確率
自己顕示性	授業に集中して取り組むことができていると思いますか。	3.31	3.30	p=.038
	授業に進んで参加することができると思っていますか。	3.46	3.30	p=.011
	グループ学習に、進んで参加することができると思っていますか。	3.46	3.40	p=.014
	友だちと協力して、学習をすることができると思っていますか。	3.38	3.40	p=.009
	友だちの考えや意見を聞いて、考えを深めることができていると思いますか。	3.38	3.30	p=.005
	わかるまで学習しようと思いますか。	3.23	2.80	p=.034
	自分の考えを書くことができると思いますか。	3.15	3.10	p=.005
	タブレットコンピュータを使って発表したいと思いますか。	3.46	2.60	p=.034
	タブレットコンピュータに文字や絵などを書きやすいと思いますか。	3.31	3.00	p=.016
賞賛獲得欲求	楽しく学習することができると思っていますか。	3.54	3.60	p=.011
	授業の内容がよくわかっていると思いますか。	3.23	3.50	p=.035
	授業に進んで参加することができると思っていますか。	3.46	3.30	p=.021
	学習したことをもっと調べてみたいと思いますか。	3.38	2.70	p=.024
	じっくりと考えて、自分の考えを深めることができていると思いますか。	3.08	3.00	p=.011
	自分の考えや意見を友だちや先生にわかりやすく伝えることができていると思いますか。	3.54	3.20	p=.015
	自分にあった方法やスピードで進めることができていると思いますか。	3.46	3.40	p=.024
	友だちと教え合うことができていると思いますか。	3.62	3.20	p=.006
	グループ学習に、進んで参加することができると思っていますか。	3.62	3.20	p=.008
	友だちと協力して、学習をすることができると思っていますか。	3.54	3.20	p=.009
	友だちの考えや意見を聞いて、考えを深めることができていると思いますか。	3.46	3.20	p=.009

名（55.6%）であった（図1）。

3.3 拒否回避欲求

意識調査は、高群も低群も事前事後で有意差がなかった。小テストは、拒否回避欲求高群 17 名中、成績上位者 11 名（71.4%）、成績下位者 6 名（33.3%）であった（図1）。

3.4 賞賛獲得欲求

意識調査は、自己顕示性の低群は、表1の11項目に有意差が認められた（表1）。小テストは、賞賛獲得欲求高群 13 名中、成績上位者 10 名（71.4%）、成績下位者 3 名（33.3%）であった（図1）。

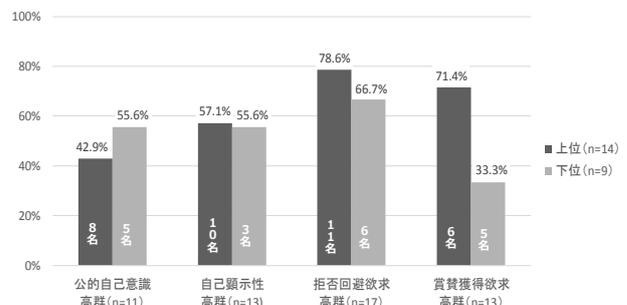


図1 小テストの結果

4. 考察

4.1 アクティブ・ラーニングに対する意識

自己顕示性と賞賛獲得欲求の低群が集中や参加などの学習意欲が増した理由として、賞賛獲得欲求は自己顕示性と強い相関があることが考えられる⁽³⁾。

4.2 成績

知識、及び思考を伴う小問の伸びが大きい生徒は、賞賛獲得欲求が高い者に多いことが分かった。生徒同士がお互いの存在意義を見出し、積極的に意見を求め、発言して認められたという達成を喜ぶ機会を増やす環境づくりが重要である。

5. まとめ

本研究では、中学生の公的自己意識高群の自己顕示性や拒否回避欲求、賞賛獲得欲求に着目した。そして、タブレットを対話で使ったアクティブ・ラーニングを実施し、意識と小テストの事前事後の推移を比較分析した。結果、自己顕示性が低い生徒と賞賛獲得欲求が低い生徒は、タブレットを活用した対話型の授業を介して学習意欲高まった。賞賛獲得欲

求の高い生徒に、知識、及び思考を伴う問いの伸びが大きい割合が高かった。

今後の課題として、対象学年や生徒を増やし、対人不安に着目すること、賞賛獲得欲求が低い生徒の成績を高める方法を検討することが求められる。

謝辞

本研究にご協力いただいた皆様に感謝します。

参考文献

- 文部科学省：“学習指導要領（平成29年3月公示）”，（2017）http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afildfile/2017/06/21/1384661_5.pdf（参照日：2018年02月05日）
- 鈴木庸佑他：“一人一台タブレット環境のアクティブ・ラーニングによる児童生徒の公的自己意識の高低と成績の関係”，JSiSE全国大会 42, pp.479-480（2017）
- 菅原健介：“賞賛されたい欲求と拒否されたくない欲求 -公的自意識の強い人に見られる二つの欲求について-”，心理学研究 57, pp.134-140（1986）
- 万代ツルエ：“対人状況の違いによる自己呈示と対人不安の関係-女子青年の場合-”，日本パーソナリティ心理学会発表論文集, 13, pp.1-13（2004）